

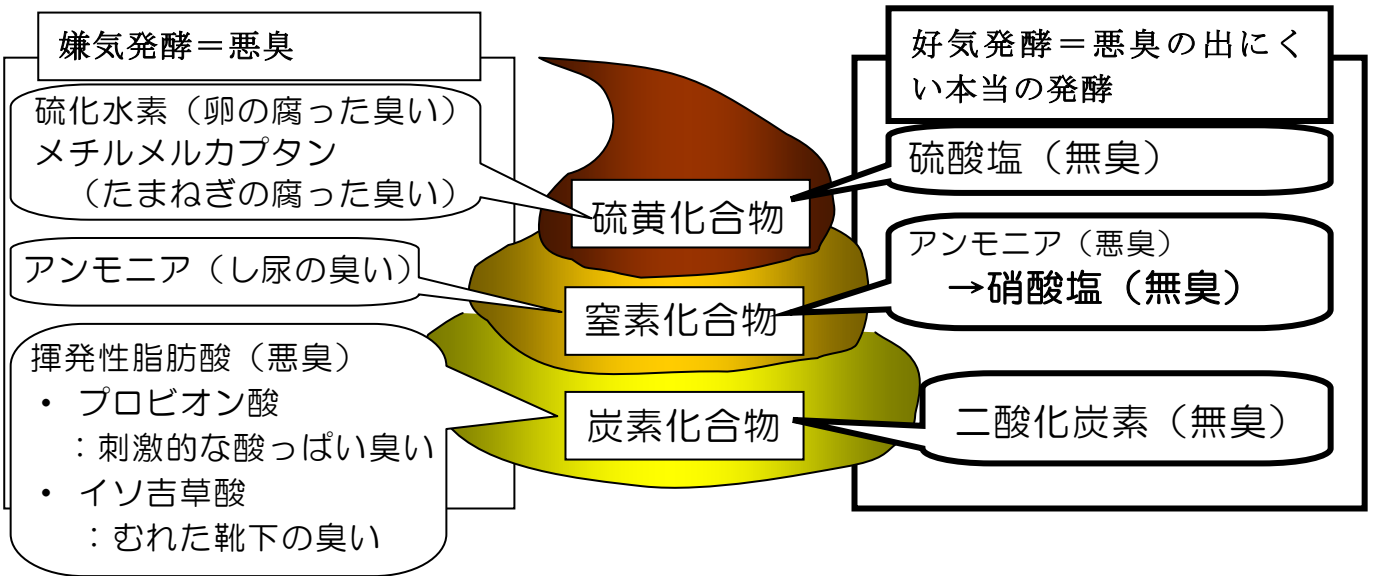
6月は京都府の「畜産環境保全月間」です！

これを機会に、堆肥化処理過程の点検を行いましょう。

良質な堆肥を作る4つのチェックポイント！

①好気発酵を行いましょう！

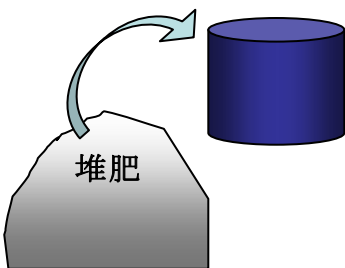
堆肥作りでもっとも重要なのは、空気を十分に含ませ、酸素のある発酵を行うことです。空気を入れることで悪臭はほとんど出なくなります。



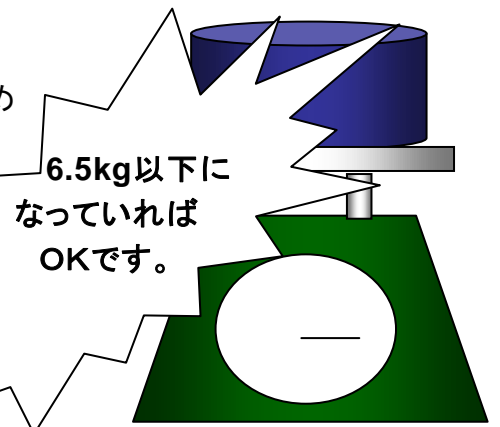
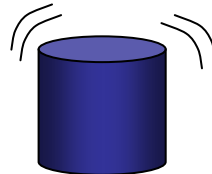
②どうすれば好気発酵できるか？容積重がポイントです！

ふんの水分を調整することで好気発酵を行います。
水分は容積重（容積あたりの重量）で予測します。

積んである表面10cmほどを取り除き
10Lバケツに隙間なく詰め込む。

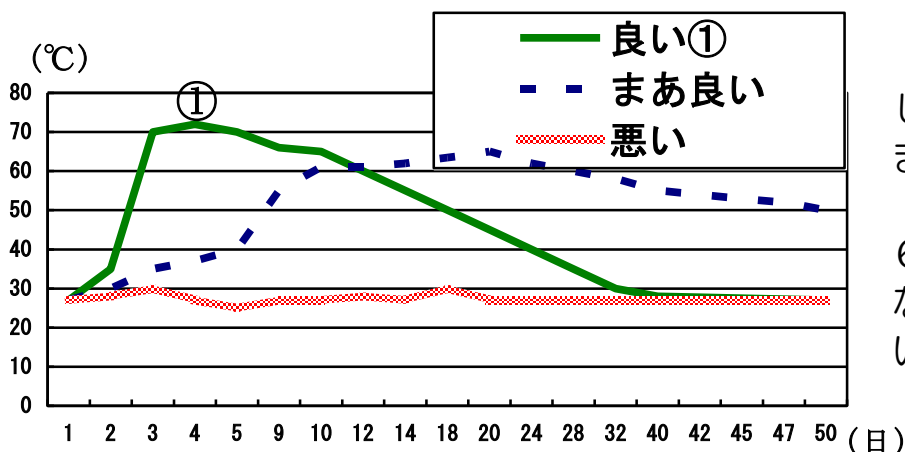


地面にトントンと5回落として詰め込みさらに堆肥を入れ、すりきり一杯にします。



その時の重量が容積重になります。

③ 温度を測って発酵が良好か確認しましょう！



堆肥の発酵状態の良し悪しは、温度で判断しましょう。

少なくとも温度が60°C 2日間以上続かないと、良い堆肥とは言い切れません。

55°C 1日以上持続して初めて病原体（大腸菌やサルモネラ、寄生虫）が死滅します。病原体が死滅しないと、敷料に再利用できません。また、堆肥置き場が病原体の巣になってしまいます。

また、60°C 2日以上持続しないと、ふんに含まれる、雑草の種子が死滅しません。「堆肥をまいたら畑に見たこともない雑草が生えた。」といったクレームがないよう、良質な堆肥作りをしましょう。

④ 見た目やにおいも重要なポイント

発酵特有の暖かい（生ぬるい）ような匂いがします（臭いではありません）。

たまねぎやキャベツの腐った臭いはなく、まるで腐葉土のような匂いです。

また、酸素の供給が十分で堆肥化が進むと、堆肥は褐色～黒褐色になります。分解速度が速いほど色は淡くなります。さらに、繊維質作物資材や木質資材を混入していれば、これらの形状が壊れた様子から、堆肥化の進み具合を判断することができます。これにより切り返しや搬出のタイミングを判断しましょう。

堆肥作りを見直してみませんか？

- 堆肥化処理の基礎を学びなおしたい。 ⇒スライドで詳しく説明します。
- 堆肥化処理の工程のチェックをしたい ⇒現地を見ながら相談します。
- 現状の再確認をしたい ⇒水分の測定などお手伝いします。

堆肥化処理の基礎を見直すことでもう一段高いレベルの良質堆肥生産が可能になるかもしれません！

出前研修もOK（参加人数は問いません）。この機会にぜひ家保に相談ください！

簡単にですが堆肥作りのポイントを書きました。わからないことなどありましたら家畜保健衛生所に相談ください。

京都府中丹家畜保健衛生所
住所 福知山市字半田 371-2
TEL 0773-25-1860（夜間・休日転送機能有り）